

平成28年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価表（自己評価）

校 訓	礼節・友愛・創造
学校教育方針	<p>全生寮教育を通して「自他一如の精神（心）」を養い、知恵と勇気と行動力を備えた人間性豊かな人材を育成する。</p> <p>(1) 商業（ビジネス）及び家庭に関する豊かな教養と、専門的知識・技能を兼ね備えた有為な人材の育成</p> <p>(2) 人権に対する正しい理解と知識を深め、基本的人権を尊重する人材の育成</p> <p>(3) 自主的な生活態度と、責任を重んじる人材の育成</p> <p>(4) 文武両道を兼ね備えた、心身共に調和のとれた人材の育成</p> <p>全生寮教育とは、如何なる状況の中でも身を処して誤らない行動の基準を、集団（学校）生活の中で体得するものである。</p> <p>【全生寮本旨】</p> <p>1. 自己のうちに もてる全てを 発揮して 生きよう</p> <p>1. 全ての 他の人を 生かそう</p> <p>1. 全ての 人とともに 生きよう</p>
学校教育目標	<p>(1) 商 業 科 ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、企業活動や流通に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(2) 情報処理科 ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、情報処理に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(3) 家 政 科 生活に関する専門知識と技術を身につけ、生活産業分野に関するスペシャリストとして社会に貢献できる人材を育成する。</p>
本校の生活信条	<p>○ 挨拶（島商）しましょう。（心をつなぐ）      ○ 掃除（島商）しましょう。（心をこめる）      ○ 勉強（島商）しましょう。（向学心をもつ）</p> <p>○ 部活（島商）しましょう。（心身を鍛える）      ○ 奉仕（島商）しましょう。（思いやりの心をもつ）</p>
前年度の成果と課題	<p>(1) 本校教育の根幹と位置付けた全生寮教育は、充分効果を上げているものの時間が経過することで、生徒の意識が薄れてしまう面が見られる。根本的な見直しも含めて様々な角度から検討し、全職員で取り組みより良い方向に改善していく必要がある。</p> <p>(2) 定員確保については、教務部を中心に中学校訪問や学校説明会を実施してきたが、定員を確保できなかった。進路実績や教育内容を積極的にPRしていく必要がある。</p> <p>(3) 学習活動では、資格取得などについての取り組みは意欲的であるが、家庭学習については、課題がある時だけ取り組む生徒が多い。課題の出し方など教科間で連携していく必要がある。</p> <p>(4) 不登校生徒への対応では、病院受診など専門機関へ結びつけることはできたが、その後の連携や対応が十分にできなかった。校内の連携や家庭との連携体制などの見直しが必要である。</p> <p>(5) 各種検定の合格率では、特に情報処理科で1級取得率の向上が見られた。また、家政科の多種目1級合格者数が増加した。</p> <p>(6) 3年生になって進路変更をする生徒が見られた。進路選択に必要な適確な情報を提供し、生徒に望ましい職業観を身につけさせる必要がある。</p>
本年度の重点目標	<p>(1) 基本的生活習慣の確立</p> <p>(2) 学力の伸長</p> <p>(3) 三年間を見通した計画的な高資格取得</p> <p>(4) キャリア教育の推進</p> <p>(5) 地域に開かれた学校づくり</p> <p>(6) 広報活動の推進</p> <p>(7) 職員研修の充実</p> <p>(8) 創立60周年事業の実施</p>

評価 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

【評価分野】 1 学校経営							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①学校教育目標	学校教育目標の具現化	学科に即した目標を設定し、教職員の共通理解のもとに目標を達成するための教育活動を行う。	商業科・・・ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、企業活動や流通に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。	1	3.0	3.0	検定への取り組みの成果が見られ、生徒の意欲向上に繋がった。島商uppでの活動が企業活動や流通に関する専門的知識として身につけていると思う。勉強以前の指導が必要な生徒が増えてきており、基本的なマナー指導も徹底していかなければならない。
			情報処理科・・・ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、情報処理に関する専門的知識と技能を活用して社会に貢献できる人材を育成する。	2	3.0	3.0	少しずつ専門的知識が身につけてきた。検定の合格率も上向っており、授業に対する生徒の姿勢も良好である。
			家政科・・・生活に関する専門知識と技術を身につけ、生活産業分野に関するスペシャリストとして社会に貢献できる人材を育成する。	3	3.0	3.0	目的意識のある生徒が多く、専門分野の検定にも積極的に取り組んでいる。地域の民間講師や土曜日・放課後を利用したボランティア活動、福祉・生活産業基礎の教科での地域施設への実習等を通して、地域に密着した産業分野への貢献活動を行った。
②学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育方針や教育目標等を生徒・保護者・地域等に説明したり、情報を流し、宣伝したりする機会を設け定員確保に努める。	4	3.0	3.1	学校説明会やオープンスクールで詳しい説明を実施しているが、残念ながら定員割れとなった。もっと工夫を考えなければならない。
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	5	2.9	3.0	教育活動全般において、経営方針を意識して取り組むことができた。今後の課題は全職員が連携して行っていく体制や意識が必要である。
③学年経営	学年目標の具現化	1年 島商生としての自覚を持ち学校生活に適應させる。	全生寮教育を通して基本的な生活習慣を確立させ、高校生活への適應力を養う。	6	2.0	2.0	全生寮教育がその後に学校生活に生かされるようにしなければならない。
			進路に対する意識を高め、早期に進路目標を決定させる。	7	3.0	3.0	進路に関する相談を受けることが増えた。進路意識は高まってきていると思われる。
		2年 中堅学年としての自覚を促し、人格の陶冶に努めさせる。	日々の授業や家庭学習の充実を図り、学力向上に努めさせる。	8	2.0	2.7	家庭学習の習慣づけがなかなかできなかったが、考査前に補講や自学を行うことでテスト中の学習習慣が定着しつつある。
			面談等を通じて、早期に進路目標を決定させ、その実現に向けて努力させる。	9	3.0	3.1	具体的な進路先が未定の生徒が見受けられる。早期に進路希望を確定させて進路希望実現に向けた取組をさせなければならない。
		3年 最高学年としての自覚のもとに、創造力に富む心豊かな人間性の涵養を図る。	規則正しい生活の中で主体的に考え行動する自主・自立の精神を養う。	10	3.0	3.2	行事においては、積極的な活動が見られ良好であった。場に応じたマナーをもう少し身に付けさせることが出来なかった。
進路指導の充実を図り、能力・適性を生かした進路選択を指導・援助する。	11	4.0	3.0	ゆったりとしたところがあったが、受験直前になると最後まで時間を惜しんでしっかりと取り組み良い結果を得た。			
④学級経営	学級目標の具現化	学校目標や学年目標に沿った学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	12	3.0	3.1	進路目標や行事の目標を設定するなど、それぞれのやり方で意識させて取り組むことができた。

【評価分野】 2 教育活動							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善ならびに適切な学習指導	各教科で効率的な学習を実践する。	毎日、1時間以上の家庭学習を習慣化し基礎学力の向上を目指す。	13	2.3	2.4	検定や考査期間には学習の取組が良いが、平日の学習時間についてはまだまだである。家庭学習を充実させるためにも課題の出し方など工夫していく必要がある。
			毎学期、ICTを活用したわかりやすい授業を実践する。	14	2.7	2.9	今年度はICTを利用した授業展開が多く見受けられた。今後も、ICTを活用して分かりやすい授業を実践していきたい。
		三年間を見通した目標を設定し、計画的な高資格取得を目指す。	各種検定の合格率を上げ、全商検定1種目以上1級を取得させる。	15	2.6	2.8	3年生では1名ではあるが全商1級8冠を達成できた。1年生では昼休みの補習なども実施して、各検定の合格率が高くなった。1月に大会と重なり受験できない生徒がいたので、次年度の検定で取得させていきたい。
			家庭科検定の合格率を上げ、被服・食物・保育検定で1種目以上1級を取得させる。	16	3.0	3.0	今年度は、三冠王17名、四冠王2名を出すことができた。各検定で高い合格率を達成できたが、100%を目指して筆記対策に力を入れていきたい。
			英語検定・漢字検定の合格率を上げる。	17	2.3	2.6	漢字検定受検者数は微増だが、2級・準2級合格が難しくなってきた。合格するための基礎力を高める必要がある。
②特別活動	HR活動や生徒会活動・学校行事の充実	生徒自身による自発的な活動を実践する。	各ホームルーム委員の積極的活動と校外における一人一役を推進する。	18	3.0	3.3	係りの活動に差があったものの、与えられた仕事はきちんとこなすことができていた。
			生徒会・家庭クラブ活動を活性化して、地域行事やボランティア活動に積極的に参加する。	19	3.3	3.2	地域でのボランティアは、島原図書館の読み聞かせ、銀の星・スマイル等の障害者施設のサポート、老人ホームでのサポート、愛児保育園での実習等、年間通じて実施できた。
③生徒指導	基本的な生活習慣の確立	全生寮教育の充実を図り、全教職員による継続した指導を徹底する。	授業の折には必ず礼儀作法・服装・学習態度（遅刻時の指導も含む）など具体的指導に努める。	20	3.1	3.2	その場に応じた指導を行っているが、職員間に差があるので、具体的な礼法指導の研修を行い共通理解のもとで指導していく必要がある。
			交通ルールへの遵守と自転車の二重ロックの徹底に努める。	21	3.0	3.5	二重ロックについては、生活委員が点検しほぼ100%達成できた。また、大きな自転車事故も発生しなかった。
④進路指導	個々の生徒の能力と適性を活かす進路指導の充実	三年間を見通した効果的なキャリアガイダンスを実施する。	生徒、保護者への進路ガイダンスの実施と充実を図る。	22	3.1	3.4	必要に応じた個人面談の実施や、学年毎のガイダンスを行うことで、進路意識の高揚に繋がった
			生徒、保護者への進路情報をこまめに提供する。	23	3.1	3.3	学年毎に説明会を実施したが、進路の情報誌を持ち帰ったり、進路資料室を利用される保護者も多くあった。
			新たな進路先（企業・大学）の開拓を図る。	24	3.0	4.0	今年度は多くの新規求人を受けた。地元企業について知る機会が必要と思われる。

⑤健康・安全教育	健康や安全に対する態度の醸成	健康・安全についての正しい知識と理解を深める。	健康診断など保健行事を円滑に実施し、生徒の理解に努める。	25	3.0	3.0	全職員の協力により計画通り実施することができた。
		心身の健康の保持増進を實踐できる生徒を育成する。	担任・部顧問・カウンセラー部との連携を図り、早期問題解決にあたる。	26	3.0	3.0	関係者間の連携を深めながら、情報を共有して問題解決に努めていきたい。
⑥人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ、解決のための実践力を身に付けさせる。	人権教育の学習を通し、全生徒・職員の意識を高める。	27	4.0	2.7	人権教育の方向性を学校全体で検討していかなければならない。
	カウンセリングの充実	カウンセリングマインドを持って生徒の相談に応じる。	生徒理解のための諸検査を実施し、個別面談に活用する。	28	3.0	3.0	シグマ検査を実施し、生徒との個人面談に活用することができた。
			担任・他分掌・学年との連携を密にし、いじめやメール等の嫌がらせ・不登校の根絶を図る。	29	3.0	3.0	被害調査を年間3回実施して、いじめ等の問題を抱える生徒の早期発見や把握に努めた。次年度も担任・学年と連携しながら対応していきたい。
⑦特別支援教育	特別支援教育体制の整備	特別な教育的支援を必要とする生徒に対する支援体制の充実を図る。	校内委員会の設置、支援教育コーディネーターを中心に、必要に応じて職員の指導力の向上を目指して研修を実施する。	30	3.0	3.0	職員研修会を1回実施し、職員の共通理解を図った。次年度も継続した取り組みを行い、職員の指導力の向上に努めていきたい。
⑧部活動	部活動の活性化	部活動の計画的かつ効率的な活動を目指す。	「全員部活動の日」の定着と部活動の活性化を図る。	31	4.0	3.3	活発に活動していたが、部活動を変更する生徒も見られた。前年度と異なり、所属しながらも活動していない生徒は大幅に減少した。

【評価分野】 3 組織運営							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①校務分掌	適切な役割分担・組織的な活動と運営	各自の役割分担を明確にして、適切に仕事を処理する。	校務支援システムを有効に活用し仕事の負担軽減を図る。	32	3.0	3.0	諸連絡や文書の配付等で有効に活用することができた。年に一度しかない処理などは、詳細なマニュアルの作成なども必要である。
			学校全体の校務が円滑に推進できるように、分掌相互間の連携を図る。	33	2.8	3.0	学年会の記録回覧や週1回のミーティングで、情報の共有はある程度できた。
②各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	各種委員会の活動の効率化と活性化を図る。	各種委員会での協議結果を、教育活動や学校経営に生かす。	34	3.0	3.0	委員会での情報共有はできているが、その後の対策などを話し合う時間は不足している。
③校内研修	研修体制の確立と実践	職員研修の充実を図る。	全員、年に1回以上はICTを活用した授業を公開する。	35	2.5	3.0	今年は公開授業期間を設定して、ICTを活用した授業を殆どの職員が実施することができた。次年度は公開授業期間の時期を早める等して更に内容の充実に努めていきたい。
④教職員教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	各種公的研修会へ積極的・計画的に参加し、資質の向上と意識改革を図る。	36	2.5	2.5	個人により差がでている。伝達講習会や研修内容のまとめを配付して、意識の高揚に努めていく必要がある。

【評価分野】 4 教育環境							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①学校環境の整備	潤いのある生活環境・教育環境の整備	清掃活動を通じ、協調性や奉仕の精神を養い、創意工夫の心を培う。	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	37	3.2	3.2	意欲的に清掃活動に取り組む生徒が多く見られた。しかし、一部の生徒は言われないとしようとする所があるので、的確な指示を出していく必要がある。
②施設・設備の管理	施設・設備の安全管理と経費の節減	施設・設備の有効活用を図り、安全点検等の管理を適切に行う。	施設設備の安全点検を計画的に行い、必要に応じて改修や補修を行う。	38	3.3	3.4	施設設備破損の連絡が遅れる場合がある。早期に対応するために職員間の連携を蜜にしていきたい。
			水道・光熱費、通信費等の節約に努める。	39	3.5	3.6	学校全体で取り組むことができたが、毎年管理予算が削減されていく厳しい状況である。今後も引き続き水道光熱費等の節約に取り組んでいかなければならない。
③情報インフラの整備・充実	教育活動全般の情報化	情報機器等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンとプロジェクターを使いこなせるように努力すると共に、教科指導などに活用する。	40	2.9	3.1	今年度は、授業で積極的に活用する姿勢が見られた。次年度も全職員で取り組んでいきたい。
	ホームページの更新	学校の情報発信源とし、PRの手段とする。	ホームページを見やすくし、定期的に更新し最新情報を伝達する。	41	4.0	4.0	正門の掲示板の活用も含めて、タイムリーな更新ができた。教科の先生方と相談しながら、活用方法を模索できた。

【評価分野】 5 開かれた学校づくり							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①保護者との連携	PTA活動の充実	積極的に学校を開放し、地域からの信頼と理解を図る。	本校の教育活動を積極的に公開し、保護者や地域から信頼と理解を深める。	42	2.0	3.0	PTA役員を中心に、折りに触れサポートをして頂いた。各種行事への保護者の参加も全体的に熱心であった。
		PTA活動を活性化する。	PTA総会や諸活動への参加率を上げる。	43	3.0	3.0	PTA総会は79.4%の参加率であった。また、評議員会や各種委員会へも積極的に参加していただいた。
②地域や関係機関との連携	学校間の連携の充実	他校や異校種との効果的な連携を図る。	県内の大学、近隣地域の高校・中学校との情報交換や連携を図る。	44	3.0	3.0	中学校との連携はある程度図ることができた。
	外部講師の招聘	外部講師を効果的に活用する。	地域の人材を専門教科やHR等において効果的に活用する。	45	3.0	3.7	民間講師招へい授業では、6講座中4講座は地域の人材を利用して実施することができた。
	学校評議員との連携	学校評議員会を充実させる。	運営方針等学校評議員の意見を聞き学校運営に反映させる。	46	4.0	3.5	2回の委員会を開催し、学校の現状を説明することができた。また、適切なアドバイスを頂くことができた。

【総評】

<p>評価の結果 (課題と問題点)</p>	<p>全生寮研修を通して、新入生には基本的な生活習慣の確立へ向けた指導を徹底することができた。しかし、時間の経過とともに意識が薄れてしまう面が改善できなかった。今年度は全生寮教育についての職員研修を実施することができた。今後も継続して研修に取り組み、職員の共通理解や具体的な指導方法を確立させて、よりよい研修となるよう改善していく必要がある。</p> <p>生徒たちには資格取得に対して積極的に取り組む姿勢が見られ、上級取得や多冠賞の生徒が多かった。家庭学習については、課題があるときだけ取り組む生徒が多く改善できなかったが、考査前に補講や自学を実施して基礎学力の定着を図った。</p> <p>生徒募集については定員割れの状況となり、本校の魅力や特色を中学生や保護者・中学校職員、地域に積極的にPRすることが出来なかった。広報活動を徹底し、学校の取り組みや特色が地域に見えるようにしていく必要がある。</p> <p>今年度は、全職員でICTを活用した公開授業に取り組むことができた。また、全生寮教育に対する職員研修も実施して全生寮研修に対する職員の意識の共有化を図ることもできた。次年度も継続して取り組み指導力向上や、全生寮研修の充実に繋げていきたい。</p> <p>創立60周年記念式典は、各方面から協力していただき無事に終了することができた。また、記念体育大会や記念文化祭では、生徒たちが一生懸命に取り組む盛大に開催することができた。</p>
<p>来年度の改善策</p>	<p>全生寮教育については、職員研修を継続して行い職員間の共通理解を深めるとともに指導体制の見直しを行い、組織的な指導体制の確立を図る。また、全ての教育活動や学校生活の中に全生寮教育を結び付けていく。</p> <p>資格取得に対する生徒の意識は高いものがある。その意識を上手に活用しながら、家庭学習に取り組ませていきたい。また、マイルストーンを学校生活のあらゆる場面で活用させ、自己管理能力を身につけさせていきたい。</p> <p>本校の取り組みについて、積極的に中学校にアピールするとともに地域へも情報発信を行っていき、選ばれる学校を目指していく。</p> <p>早期に公開授業期間を設定して、分かる授業を推進するための指導力向上を図る。また、ICT機器の活用能力の向上へも積極的に取り組んでいく。</p>

平成28年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価生徒アンケート集計結果

- I 調査対象者数 318名  
 II 調査回収率 99.7%  
 III 評価基準各質問に対して、

4: そう思う(あてはまる)	3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
2: どちらかというと思わない	1: そう思わない(あてはまらない)
(ややあてはまらない)	

項目	番号	内 容	1学年	2学年	3学年	全体
1 教育活動	1	あなたは島商の努力目標やキャッチフレーズ(自立共生)を念頭に置いて行動している。	2.8	2.6	2.9	2.8
	2	あなたは積極的にあいさつを行っている。	3.4	3.2	3.4	3.3
	3	あなたは全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	3.0	2.9	2.9	2.9
	4	あなたはルールやマナーを守り、容儀や言葉遣いなどをきちんと行っている。	3.2	3.2	3.2	3.2
	5	あなたは日頃から周囲や相手のことを思いやって生活ができています。	3.2	3.2	3.2	3.2
	6	あなたは地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	2.4	2.6	2.5	2.5
	7	あなたは部活動に熱心に取り組んでいる。	3.3	3.3	3.0	3.2
	8	先生方は生徒が校則違反をした時、きちんと指導してくれる。	3.5	3.2	3.4	3.3
	9	先生方は親身になって何事にも相談にのってくれる。	3.1	2.7	3.1	3.0
	10	島商は進路に関する情報を提供してくれる。	3.2	3.0	3.3	3.2
	11	島商では命を大切にする教育や人権・平和教育が行われている。	3.1	3.1	3.3	3.2
	12	島商ではボランティア活動など地域と交流する活動が行われている。	3.2	3.1	3.3	3.2
2 学習活動	13	あなたは進路や資格取得など目標を持って学習に励んでいる。	3.2	3.1	3.2	3.2
	14	あなたは家庭学習を1日60分以上行うよう努力している。	2.4	2.1	2.1	2.2
	15	島商の授業は工夫がなされ分かりやすい。	2.8	2.6	2.6	2.7
	16	島商の授業では教科書以外の補助教材や教育機器等が活用されている。	3.1	2.9	2.8	2.9
	17	島商では適性・進路に応じたコースや科目を選択する指導が行われている。	3.2	3.1	3.1	3.1
3 教育環境	18	島商では教育に必要な施設・設備が整っている。	3.0	2.7	2.8	2.8
	19	島商は清潔で清掃が行き届いている。	3.1	2.8	2.9	2.9
	20	島商では健康や安全に関する指導が行われている。	3.0	3.0	3.1	3.1
	21	あなたは環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	3.3	2.9	3.2	3.1
4 その他	22	島商の生徒会活動は生徒が中心となって運営している。	3.3	3.0	3.3	3.2
	23	あなたは学校の出来事を家庭で話している。	3.0	2.9	3.0	3.0

平成28年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価保護者アンケート集計結果

I 調査対象者数 318名

II 調査回収率 99.1%

III 評価基準 各質問に対して

4: そう思う(あてはまる)	3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
2: どちらかというと思わない(ややあてはまらない)	1: そう思わない(あてはまらない)

項目	番号	内 容	1年	2年	3年	全体
1 教育活動	1	本校の教育方針や努力目標はわかりやすいものになっている。	3.3	3.3	3.3	3.3
	2	子供は全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	3.0	3.0	3.0	3.0
	3	子供は社会のルールや本校のルールを良く守っている。	3.3	3.3	3.4	3.3
	4	子供は地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	2.6	2.8	3.0	2.8
	5	子供は積極的に部活動に参加している。	3.6	3.5	3.5	3.5
	6	学校では、容儀・マナー・あいさつや言葉遣いなどの指導は十分行われている。	3.4	3.3	3.3	3.3
	7	学校は子供に関する保護者の相談にきちんと対応している。	3.2	3.1	3.3	3.2
2 学習活動	8	子供は授業が分かりやすいと言っている。	2.8	2.8	2.9	2.8
	9	子供は進路や資格取得など目標を持って学業に励んでいる。	3.1	3.2	3.4	3.2
	10	子供には日頃から家庭学習を行うように声をかけている。	3.1	2.9	3.0	3.0
3 教育環境	11	学校は教育に必要な施設・設備が整っている。	3.2	3.0	3.2	3.1
	12	子供は環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	3.0	2.8	3.0	2.9
	13	学校は清潔で清掃が行き届いている。	3.4	3.2	3.4	3.3
4 開かれた学校	14	学校の施設は保護者や地域に開放されている。	3.1	3.2	3.1	3.1
	15	学校は学校の様子や諸行事に関する情報を家庭や地域にきちんと提供している。	3.1	3.1	3.2	3.1
5 その他	16	PTA活動や学校行事に進んで参加している。	2.8	2.8	2.8	2.8
	17	子供は明るく生き生きとした学校生活を送っている。	3.3	3.2	3.4	3.3
	18	子供は学校での出来事を家庭で話してくれる。	3.1	3.2	3.3	3.2

1 評価の実施期日・場所等

- (1) 第1回 平成28年7月20日(水) 本校校長室
- (2) 第2回 平成29年3月16日(木) //

2 学校関係者評価委員

- 出田 春喜(学校評議員と兼務) 第1回出席・第2回出席
- 松本 裕介( // ) 第1回出席・第2回欠席
- 小田 澄香( // ) 第1回出席・第2回出席
- 杉永 有助( // ) 第1回出席・第2回出席

3 学校関係者評価の内容

(1) 自己評価の結果について

○各項目の具体的方策や評価が適切に行われているかという点については、4段階評価で「学校経営分野」は3.8、「教育活動分野」が3.9、「組織運営分野」が4.0、「教育環境の整備・活用分野」が4.0、「開かれた学校づくり分野」が4.0であり、全ての項目で高い評価をいただいた。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

○自己評価の結果を踏まえた今後の改善策が適切であるかという点については、4段階評価で「学校経営分野」が3.8、「教育活動分野」が3.9、「組織運営分野」が3.8、「教育環境の整備・活用分野」が4.0、「開かれた学校づくり分野」が4.0であり、適切であったと思われる。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

○「学校の重点目標が適切に設定されているか」という点については、4段階評価で4.0、「自己評価の評価項目が適切であるかどうか」という点については、4.0であり、高い評価をいただいた。

(4) その他

下記のご意見やアドバイスをいただきました。

- 島原商業高校の生徒の規律を守った言動を感じることができる。今後も、この校風の良いところを守って欲しい。
- オープンスクール等で島原商業の良いところをもっとPRして、生徒募集に力を入れて欲しい。
- 地域との連携を今後も深めて欲しい。
- 全生寮研修を充実させて欲しい。